

北光

第 139 号

平成19年11月24日



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉱山専門学校
秋田大学鉱山学部 同窓会
秋田大学工学資源学部

秋田大学工学資源学部は、明治44年(1911年)に秋田鉱山専門学校として新入生を迎えて以来、平成23年(2011年)に創立100周年を迎えることになります。
また、北光会は昭和3年(1928年)に設立され、平成20年(2008年)に80周年となります。

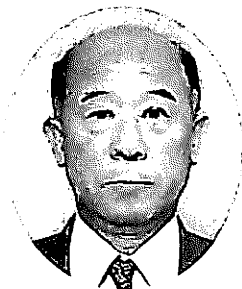
目 次

吉村昇工学資源学部長(ES42)、次期学長に選出される	
巻頭言 アメリカインディアンの言葉	加 茂 勝 秋 1
会長便り 吉村学部長次期学長に!!	菊 地 芳 朗 2
生命化学科新設および環境応用化学科への名称変更	
	伊 藤 英 晃 3
100周年記念事業	
募金に関わる現状報告と会員に対するお願い	山 田 悦 郎 6
寄附者御芳名	 7
先輩から後輩へ	横本 誠一・田中 善之・阿部 佳奈11
寄 稿	根 岸 義 光15
学生の声 オープンキャンパス「頑張ったで賞」	17
研究最前線	加藤 純雄・仁野 章弘・橋本 仁23
セミナー報告	長谷川裕晃・長縄 明大・佐藤 時幸27
大学説明会	木 村 一 裕29
鉱業博物館企画展	
津波の正体にせまるー津波研究の最前線ー	松 富 英 夫30
ロケットガール養成講座	土 岐 仁31
国際資源大学校との協力教育事業について	柴 山 敦32
秋田大学とDOWAホールディングス(株)との協定	柴 山 敦33
北光会台湾総会に参加して	大 山 宏34
平成19年度第1回支部長会報告	中 田 真 一36
北から南からー支部・クラス会だよりー	38
会員だより・母校だより	47
事務局から	48
計 報	48
編集後記	49

会費納入のご協力をお願いします：このところ北光会会費の納入率の低下が目立っております。特に、若い会員のご協力をお願いします。

アメリカインディアンの言葉

東海北陸支部長 加 茂 勝 秋 (HS36)



9月12日、所信表明を終えたばかりの安倍首相が突然辞意を表明して日本国中を驚かした。

当然のこととしてリーダーシップや決断のあり方、責任論など多くの議論が巻き起こった。

が、それとは別に安倍首相について日頃から気になっていることがあった。話が長いことと「私の内閣」という言葉を多用することである。この言葉にはおごりと言って悪ければ、なにか勘違いをしているのではないか、との思いを抱かされていた。勘違いとは、内閣は安倍さんが国民から預かっているものであって、安倍さんのものではないということである。そんなことは分かりきったことだという向きもあろうが、心底国民から預かっているものと思っているのであれば、もう少し国民の目線に立つことができたのではなかったか。

さて、100周年記念事業の寄付のお願いに先生方のお供をして、いくつかの企業を訪ねた。趣意書についての先生方の説明にはどの企業もよく理解を示してくれた。また、かつて50周年と75周年の記念事業に協力いただいたことに感謝し、その現状についても大略をお話した。

鉱業博物館には昭和天皇、皇后両陛下をはじめ各界の方がたをお迎えした。とりわけ多くの小中学生が訪れ、目を輝かして勉強していく。年間約1万人の人たちが利用してくれている。国際交流基金についても、現在9ヶ国、14大学と交流協定を結んでいるほか、多くの学会に参加して学術上の貢献はもとより、民間外交としての成果を上げていることは勿論である。

100周年の事業はこれら二つの事業の上に積み重ねるものであり、お願いの寄付はいただくものではなく、お預かりして形を変えて社会に還元するものであることを二つの事業実績からも理解していただいたものと思っている。

ところで、今予測をはるかに上回る速さで地球の温暖化が進んでいる。ツバルでは温暖化難民を出し、世界の各地で気象変動による甚大な被害が発生していることは周知の通りである。

人間は地球上のものが有限であることを知らなかったときから現在に至るまで、その時々目の欲求に従って許される範囲以上のことをやってきた。その最たる悪が戦争であり、いまや温室効果ガスの過剰排出は戦争にかわる悪となりつつある。ここにきて京都議定書の枠組みに入らなかった国々もようやく重い腰を上げ、国連気候変動ハイレベル会合の討議に加わった。その会合で国連事務総長は総括して「私達は新しい時代に突入した」との認識を示した。

こうした中、工学資源学部が姉妹交流しているドイツのフライベルク大学を中心に、アジアから秋田大学、他にアメリカ、ヨーロッパの大学が参加して来年3月にIURなる機構の設立準備が進められており、そこでは資源利用の最大化とか製品ライフサイクルの全段階における環境負荷への防止などに取り組むという。当計画への参加も100周年事業のもたらした成果の一つとして心強く、期待するところ大である。

20年以上も前になるが、日科技連のFQC誌にアメリカインディアンの言葉が紹介されていた。「この自然は、我々が我々の祖先から譲り受けたものではなく、我々の子孫から預かっているものである」と。自分の所有物であれば勝手な使い方をすることもあろう。が、預かりものはそのまま返さなければならないというのだ。ともすれば忘れ、あるいは勘違いしてしまう過ちを、言葉に遺して戒めているのである。含蓄ある言葉だと思う。以来、私は事ある毎にこの言葉を思い出すようにしている。我々は子孫に返すべき地球をすでに歪めてしまいつつある。世界の政治指導者をはじめ、一人ひとりがアメリカインディアンの言葉をかみしめて行動しなければならない時代に突入しているのである。

IUR: International University Resources

吉村学部長次期学長に！！

菊 地 芳 朗 (GS34)



最初に喜ばしいニュースをお知らせすることが出来ました。法人化後、初の学長選挙が10月29日に行われ、現工学資源学部長の吉村昇教授 (ES42) が選出されました。心からお祝い申し上げます。

秋田大学出身者が学長に就任するのは、秋田鉱山専門学校時代の校長と国立大学時代を含めて、初めてのことであります。

北光会80年の歴史のなかで初めて会員が学長になると云う快挙であり、大変喜ばしいことです。

学校法人となって選挙の方法も変わりました。学内の教員で行われていました選挙が教員と一部の職員で「意向調査」(選挙)が行われ、これを参考に学外委員を含む「学長選考会議」で、管理運営、教育研究、社会貢献、国際交流などの実績を審査して決めるものです。

吉村学部長は意向調査と学長選考会議で大差をもって選出されました。任期は来年4月から3年で、更に3年の再任が可能です。これからのご活躍を期待いたします。

さて、今年も一ヶ月で暮れようとしております。今年は災害の多い年でした。能登半島地震に始まり中越沖地震、台風と豪雨災害などです。

なかでも中越沖地震では柏崎原発も被害を受けました。沖合の活断層調査を行っていなかった、との報道に接し、我が国の原発の安全は大丈夫だろうかと思いました。

災害に遭われました会員の皆様方には心からお見舞い申し上げます。

また、暮れに来て原油の先物価格が1バレル95ドルを超えました。原油の高騰で私達の生活に大きな影響を与えて来ております。近くスタンドではレギュラーガソリンも1リットル148円となりました。しかし、これでもまだ輸入ミネラルウォーターの方が高いのです。だから原油が高値でよいとは考えておりませんが、日本で水より安いガソリンと云うことは、長い

間石油資源産業に携わってきたものとして何か寂然としないことも事実です。価値観の問題ですが、どう考えればよいのでしょうか。勿論、水資源は世界の大きな問題であります。

創立100周年記念事業の募金の方は「北光」8月号に新しい募金趣意書を同封したためか、8月の募金額が急増しました。10月31日現在、総額8,906万円の御芳志を賜り感謝申し上げます。その内、北光会は2,081人で5,431万円であります。まだ企業と教職員関係は進んでおりません。

来年は、昭和3年に北光会が設立されてから80年になります。10月に行われました支部長会で総会時に80周年記念を行うことが決まりました。詳細につきましては次号の「北光」でご案内いたします。

次に、会費のことですが、先号の「北光」でこのままで行くと基金を取り崩し大変なことになると述べましたが、それなら納入率が幾らであれば健全な運営が出来るのでしょうか。現在の運営費と会員数で見ると42～3%が必要となります。更に5～6%の納入率の上昇が必要ですが、これは不可能なことではないと考えております。

平成11年度以前は40%を超えており、平成3年度は44.9%でありました。皆様の努力次第で達成出来ると思っております。より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

9月の関西セミナーに出席した機会に石清水八幡宮、伏見稲荷大社と京都駅から五重塔の見える東寺(教王護国寺)にお参りして来ました。これらの社寺は朝廷が禍いや災害にあったときに祈願・祈祷する七社七寺に入る由緒ある社寺です。創立100周年募金の成就と会費納入率向上をお願いしました。学部長が次期学長に選出され、選挙も終わりましたので、学部長から教職員と企業募金に尽力を尽くすと、確約をいただきましたので、少しはご利益があったと思っております。

会員の皆様方におかれましてはよいお年をお迎えください。

“生命化学科”新設および“環境応用化学科”への名称変更

環境物質工学科 学科長 伊 藤 英 晃

生命化学科設置目的および背景

環境物質工学科は鉱山学部から工学資源学部への改組に伴い平成10年に設立され、化学を基礎とした学科として秋田大学における教育・研究に貢献して参りました。しかし18歳人口減少に伴い、昨今の環境物質工学科の受験生も減少傾向にあります。また、学部の中期計画・中期目標の中には平成18年度までに新学科を検討することが盛り込まれております。このため、環境物質工学科としても学科の将来計画を議論して参りました。その結果、環境物質工学科は受験生の増加を計りながら環境応用化学科に名称変更し今後も維持発展させるとともに、生命化学に特化した生命化学科の新設に環境物質工学科として全面的に協力することになりました。

秋田大学工学資源学部は、資源系及び工学系を基盤とした学術研究分野や各種産業界の発展に多大な貢献をして参りましたが、生命系の学科は皆無でありました。近年、工学資源学部環境物質工学科に在籍する学生の中で、生命系研究分野への進学や就職を希望する学生が顕著に増加していること、来るべき時代の生命系学間研究分野、及びバイオ関連産業の発展に貢献するためにも、秋田大学工学資源学部生命系学科の新設が必要と認められます。学外からの要望としましては、平成18年度に秋田県内高校進路指導教諭と秋田大学工学資源学部が初めて会合を持ち、高校側・大学側双方から入試、教育、就職等に関し討論を行いました。その際、工学資源学部生命系新学科を望むとすればどのような内容の学科かと言うアンケートを行いました。その結果、高校側からの要望としては、生命・バイオ系学科の新設を望む声が3割強と第1位を占めました。さらに秋田県内企業側からも同様

の要望が寄せられており、工学資源学部への女子高校生の志願者増加等を鑑み、環境物質工学科を設置母体とし、工学資源学部からの全面協力体制により、学生定員を32名とする新学科とするとともに、専門内容を明確化した、少人数教育を目指す生命化学科を新設することとなった次第であります。

生命化学科の新設により期待される成果

従来、生物関連学科が皆無であった工学資源学部生命化学科を新設することにより、次のような成果が期待されます。

1. 生命系学問分野志望の受験生にとって、大学の選択肢が広がる。
2. 生命化学系の学科新設により、従来、工学部を敬遠しがちであった女子高校生の受験増加につながり、工学資源学部全体にとっても志願者増加が期待できる。
3. 学内外の医工連携研究の推進、県内外関連産業の活性化が期待できる。

工学資源学部における生命化学科の位置づけ、医学部、県立大学との関連

医薬品産業及び疾患解析等の生命系産業の発展とともに、他大学でも生命系学部や学科が新設されつつあります。秋田大学工学資源学部生命化学科は、将来の生命化学系産業界において、国際的に活躍できる学生の教育と研究を行います。医学部は生命科学全般を対象とし、将来の医師を育成するのに対し、生命化学科は生命・バイオ産業界における研究者・技術者を育成する学科であり、相違します。生命化学科は、教育・研究面で医工連携を密にします。秋田県立大学生物資源学部は農学部植物系に特化した学

部であり、生命化学科は真核生物、特に哺乳類に関連した学科であり、相違します。

「生命化学科」

生命現象を、化学を中心に
原子・分子レベルで解析



医療品や健康食品などの生命化学産業に
って必要不可欠な基礎的要素を身に付
けた人材を養成

生命化学科の構成と教育・研究内容

21世紀は生命化学の時代と言われており、ヒトの全遺伝子配列の完全解読が終了し、生命化学研究は生体分子の構造と生理機能解析に移行しております。生命化学科は、これまで複雑かつ難解な生命現象を、化学を中心に、原子・分子レベルで解析することにより、医薬品や健康食品などの生命化学産業にとって必要な基礎的要素を身につけた人材を教育することを目標としております。生命化学科は原子レベルでの生命分子の解析から、細胞、個体の生理機能解析に至るまで多岐にわたるほか、自然界からの有用生物・遺伝子などの検索や、生体素子のデザイン応用まで、独創的かつ斬新な教育研究を行っているスタッフから構成されております。

生命化学科のアドミッションポリシー

生命化学科は、生命化学に関する幅広い知識と高い問題解決能力を持ち、生命化学分野における種々の課題を化学の基礎に基づいて考え、理解し、解決が期待できると同時に、人間としての社会的義務と責任を認識する研究者・技術者の養成を目標にしております。本学科は次のような人を求めます。

1. 生命化学を学ぶのに必要な基礎学力、特に化学、生物についての十分な学力、また、

国語や英語などの十分な語学能力を有する人

2. 化学全般、特に生命化学に興味を持つことができる人
3. 勉学と研究の目標を達成できる強い意志を有している人

カリキュラムの内容

生命化学科の学生は、4年以上在学し、教養基礎教育科目、専門科目の合計124単位以上習得することにより卒業が認められます。専門科目は、必修（生命化学に関する基礎科目、演習、及び生命化学実験）、選択（高分子化学、基礎生物工学等の化学系基礎科目）とで構成されております。

規定単位取得後、希望により学士（工学）または学士（理学）の学位が授与されます。

生命化学科の教育体制・カリキュラム

教育体制

・オフィスアワーの設定

在学生が学業や学校生活全般に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を受けるために各教員が時間を設定

・チュータリング制度

3ヶ月に1度程度、指導教員と面談。学生の単位習得状況、履修状況に応じて丁寧に指導し、進路相談等も行う。

カリキュラム内容、学位、資格

教養科目、専門科目の合計124単位以上習得することで卒業が認められます。専門科目は必修科目（生命化学に関する基礎科目、演習および実験）に加え、選択科目（物理化学、生物工学科等の科学系基礎科目）で構成されています。

規程単位習得後、希望により学士（工学）または学士（理学）の学位が授与されます。

環境応用化学科への名称変更

現在の環境物質工学科は「化学」を基礎として先端技術を取り入れながら、天然に存在する物質（資源）、生体物質および人工的な物質を科学的に正しく理解し、工学的な視点で環境と技術の調和を図る視野の広い人材の育成を目標として、基礎から応用まで幅広い教育と研究を行って参りました。生命化学科の新設に伴い、環境物質工学科の教育・研究の理念を基本的に堅持するとともに、化学を全面に出した環境応用化学科に名称を変更することとなりました。環境物質工学科は受験雑誌等で、ともすれば環境物質＝材料系の学科として分類される場合も少なからずあったことも事実であります。このため、学科の教育・研究内容がより解りやすくするために、学科名称を環境応用化学科に変更し、1学年55名（現在75名）の学生定員の学科としてスタートすることになりました。

私達環境物質工学科の教職員は環境物質工学科の現状を直視し、学科の将来的な発展性を熟慮し、検討を重ねた結果、環境応用化学科への学科名称変更と、生命化学科の新設と相成りました。本年7月に開催されました文部科学省の大学等設置審議会において、学科名称変更と新学科設立は無事認可されました。現在の工学資源学部7学科体制から、平成20年4月からは8学科体制となります。すでにAO入試も終え、いよいよ入試シーズンが到来致しました。

伝統ある秋田大学工学資源学部に生命化学科が新設されるとともに、環境物質工学科の環境応用化学科への名称変更に、北光会会員の皆様のご理解と今後のご支援を是非とも賜りたく存じます。

環境応用化学科を構成する分野の内容・特徴

- 地球環境に調和した機能物質と先端技術の開発
- 鉱物・エネルギー資源の有効利用に関わるシステムの構築

学科の分野を説明するキーワード



教育体制

環境物質工学科教育プログラム(JABEE 認定プログラム)を継承

→JABEE認定を受けたプログラムの修了者は国家資格である技術士の1次試験を免除（技術士補の資格が得られます）

・オフィスアワーの設定

在学生が学業や学校生活全般に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を受けるために各教員が時間を設定

・チュータリング制度

3ヶ月に1度程度、指導教員と面談
学生の単位習得状況、履修状況に応じて丁寧に指導し、進路相談等も行う。

100周年記念事業(募金)に関わる現状報告と会員に対するお願い

募金委員会副委員長 山田悦郎 (MS33)

学内の現状と100周年事業の意義

ご承知のように、数年前から大学は独立法人となり、運営方法の大きな変化が教員や学生に及んでいるようです(私は、独法化直前に退職しましたので多少の思い違いがある可能性があります、定性的には間違いのない内容と確信しています)。その最も大きい影響は教員が使用できる経常予算の激減で、現在は以前の半分程度と聞いています。学生の定員は以前と同じですから、大学の教育の中で最も力をつける機会である卒業研究の費用を削減しながら研究教育を続けざるを得ません。

文部科学省は企業と協同して研究費用を調達しながら研究教育をすることを奨励しておりますが、研究にも色々なテーマがあり、すぐものになりそうなテーマばかりを研究しているわけではなく、現在注目されてはいないが将来大きく花開く研究もあるはずで、現在はこのようなテーマの芽をつんでいるといつてよいと思います。このような体制で大学の業績やレベルが評価されることは、特に規模の小さい地方大学の危機といえます。

このような状況を考え、今回の記念事業の第一の柱は外国からの留学生への経済的な援助も含む、若手への研究助成を第一に取り上げております。これによって学部が活性化し、社会一般に学部の特長が知れ渡ることにより、受験生にも良い効果をもたらすものと信じています。

上述のように、この第一の目的は現在在籍している、特に若い人に効果を生む計画であり、募金委員としては学内教員の募金協力のみならず最近卒業した同窓生に対しても「君達に続くよき人材を育てるためには、この記念事業が大きな意義を持つのだ」と十分に説明し、お願いしたいと思っています。

第二の柱は、50周年事業として建設・開館された鉱業博物館の整備拡充です。この博物館は秋田市の名所にもなっており、基本的に年に2回の企画展や夏休みの小学生を対象にした化石または鉱石の採集など多くのボランティアの方々

の協力も相俟って毎年の重要な行事にもなっています。しかしながら、鉱工業の変遷は著しく、これに合わせた展示内容および方法のリニューアルが必要と考えております。これを行うことによって、50周年のときに募金協力された先輩諸氏の御意思を引き継ぐことが出来ると確信しています。

企業に対しての募金活動

募金目標を達成するためには、これまでの例から、関連企業からのご援助をお願いするしかありませんが、75周年と比べても大きな相違があり、困惑しているのが私の正直な気持ちです。

この原因は、第1に企業側の「寄附」に対する考え方の変化のように思います。これは非常に高く厚い壁と感じています。また、次には教員側と企業の人事との結びつきの弱体化です。この原因として、最近の就職方法が理系でも自由応募の方式が広がり、教員側が就職活動に無関係になりつつあること、等が考えられます。この現象は残念ながらすぐには解消できるものではなく、企業からの単純な募金は非常に困難と言わざるを得ません。

しかし、上の結論で諦めるわけにはいきませんので、現在考えられる最良の方法は、企業と大学側との協同研究を行うことによって委任経理金を出来るだけ集め、その一部を企業名あるいは教員名で寄附をするという形式です。しかし、これを実現するためには、当学部の教員が特徴ある研究を行っていて、企業側に魅力を感じさせなければ協同研究・委託研究は始まりません。この方法は今年度は無理としても、本学部をさらに高めるための目的をご理解の上、来年度以降のご協力を教員各位にお願いしたいと思っております。

おわりに

この文章は100周年記念事業に関わる一員として、自分の勝手な思い込みを書かせて頂きました。少しでも共感を呼ぶ部分があれば幸いです。事業の終了まで努力するつもりであります。

学部創立100周年記念事業報告

寄附金 累計件数 2,303件 累計額 89,064,948円 (平成19年10月31日現在)

寄附者御芳名 (平成19年7月1日～10月31日受付分)

下記の方々よりご寄附をいただきました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略)

企業・団体

(株)秋田銀行
アドソル日進(株)
(株)アルファシステムズ中原テクノセンター1号館
(株)eウィンテック
ADK富士システム(株)
NECソフトウェア東北(株)
(株)オーム社
(株)カナエ
河合石灰工業(株)
キーウェアソリューションズ(株)
協栄産業(株)
コア・テクノ(株)
小林工業(株)
(株)コベルコ科研
三和テッキ(株)
綜警情報システム(株)
総合警備保障(株)
大平洋金属(株)

タドコロインターナショナル(株)
中部鋼鉄(株)
並木精密宝石(株)秋田湯沢工場
日本クラウンコルク(株)
(株)バーズ情報科学研究所
富士通マイクロソリューションズ(株)
(株)北都銀行
ミツミ電機(株)秋田事業所
(株)メイコー
ユニバーサル・インフォメーション・サービス(株)
菱栄テクニカ(株)
ADK富士システム(株)卒業生有志一同
工学資源学部後援会
OS-22期学友会
北光会東北支部
千葉北光会 (東京支部内)
北光会関西支部
北光会秋田支部・大学支部
北光会支部長会

篤志家

浅見 秀一 中村 陽生

旧職員 (卒業生を除く)

麻生 和夫 加賀谷 弘三 浦 眞六
大沼 浩 佐藤 進

現職員 (卒業生は学科にも掲載)

井上 浩 村 上 英樹 石山 大三 GS56
高島 勲 大友 崇穂 KS47

物故会員 (ご遺族より)

滝田 潔 BS23 小笠原 淳 MS23 伊藤 良男 KS25

採鉱学科・鉱山学科(採鉱学課程)

関根 五郎 BS 5	久保 三郎 BS20	加藤 善二郎 BS34
木村 七 BS 7	藤井 隆 BS20	富田 嘉郎 BS34
中島 一良 BS16後	陽田 善道 BS20	伊藤 憲哉 BS35
山田 三郎 BS16後	斎藤 正寛 BS22	大藤 茂由 BS35
和田 洋 BS17	泥谷 芳明 BS22	大伊 橋文夫 BS36
上田 正幸 BS18	安田 潤一郎 BS22	稲垣 實 BS37
狩野 豊太郎 BS18	吉田 誠一 BS22	岩谷 達夫 BS38
榊原 弘 BS18	伊藤 昭一 BS23	桐澤 武 BS38
永富 弘 BS18	上田 和利 BS23	皆川 喬 BS38
松本 保 BS18	佐々木 喜丸 BS23	加藤 正孝 BS39
越前 宏明 BS19	筒井 昭三 BS23	高松 靖 BS39
長井 俊秀 BS19	三浦 隆三 BS23	黒瀬 潜四郎 BS40
三浦 決 BS19	只野 傳治 BS26	滑川 隆 BS43

	加赤新	藤井	恒宣	男士	BS44		竹民	内谷	輝恭	義男	BS48		渡杉	邊内	幸信	晴三	BS51
	村	田井	幸雅	人彦	BS46		森満	谷	信弘	明之	BS49		藤高	田橋	徳	研二	BS52
					BS47						BS49						BS58
					BS47						BS51						BS62
採	油川	科尻	茂三	OS19			木村	告雄	OS20				桜井	井嶋		一治	OS23
	谷	口	啓之助	OS19			津和崎	正	OS20				高堀	木	源健	一	OS23
	森	脇	正雄	OS19			民部田	喜代四	OS20				堀	保木		一	OS23
	荻	田	忠	OS20			萩原	淑男	OS22				久保	木		高	OS24
資源・素材工学科 (Bコース)																	
	大瀧		亮	SH8													
地球資源学科 (Bコース)																	
	島内	伸也	WH15														
鉱山学科																	
	金澤	祥光	BS29M				村上	了治	BS31M				上村		尚一	BS33M	
	大齊	藤宏	幸	BS30M			門馬	忠彦	BS31M				谷	利		BS33M	
			BS31M				沼田	芳明	BS32M								
採	鉱桶	科屋	隆政	TS22			柿崎	勇	TS23				吉田	裕人	TS26		
	伊藤	藤	日出男	TS23			田中	收	TS25								
鉱山学科(鉱山地質学課程)・鉱山地質学科																	
	本田	茂満	GS34				村飯	敬助	GS45				西川	拓也	GH1		
	佐藤	静史	GS37				上村	忠男	GS47				畠横	井	一作	GH3	
	湯上	英雄	GS38				飯村	忠昌	GS48							GH4	
	姫野	正彦	GS39				鈴藤	史	GS49								
	谷村	光哉	GS42				石山	大三	GS56								
資源・素材工学科 (Aコース)																	
	千代延		俊	SH12													
地球資源学科 (Aコース)																	
	今泉	拓也	WH15														
冶金学科・冶金燃料学科(冶金学課程)																	
	市川	九三	HS16前				加藤	正夫	HS31				楠高		昇盛	HS44	
	田中	満雄	HS16前				藤田	昭仁	HS31				高山	山口	武盛	HS45	
	平野	幸助	HS17				佐鎌	善一	HS32				山本	武登	喜男	HS45	
	加藤	文衛	HS19				平井	敏夫	HS34				山本	幸一	児郎	HS46	
	佐々木	雄三	HS19				小本	公介	HS35				武田	田	広一	HS47	
	富澤	謙三	HS19				大本	昌夫	HS35				秋成	年	悦光	HS48	
	杉本	昇一	HS22				佐々木	光夫	HS38				吉藤	井高	淳一	HS49	
	塚本	栄司	HS22				竹立	尚弘	HS38				田石	井智	光一	HS54	
	大庭	良昭	HS23				町島	昭一	HS38				藤田	下	昇	HS56	
	吉野	昭一	HS23				小堀	晴	HS38				宮			HS59	
	高橋	慶	HS24				待井	正和	HS41							HH4	
	渡部	充	HS24						HS41							HH4	
	道山	允	HS28						HS43								
			HS30														
金属工業科・金属材料学科																	
	大塚	章	KS17				村上	嘉三	KS18				松山	琢磨	磨泰	KS22	
	大野	越郎	KS17				植枝	光王	KS19				吉石	清淑	郎	KS22	
	田田	新一	KS17				高橋	隆信	KS19				明工	敏夫	夫	KS23	
	柴田	真二	KS18						KS19							KS23	

佐々木 勇之助	KS23	尾 添 俊 二	KS49	阪 原 久	KH3
木 股 優	KS24	高 橋 研	KS55	桑 原 憲	KH4
大 友 崇 穂	KS47	小 川 直 樹	KS63		
物質工学科(材料工学コース)					
若狭谷 洋	AH7	玉 越 真 司	AH9		
材料工学科					
大 島 康 弘	QH14				
燃料学科・冶金燃料学科(燃科学課程)・燃料化学科					
乃 村 精 一	FS14	松 本 太 郎	FS37	高 山 友 子	FS51
小 林 滋	FS15	市 川 美 吉	FS38	伊 藤 均	FS52
窪 田 實	FS20	竹 村 俊 美	FS38	菅 古 精 一	FS52
小 畑 三喜夫	FS20	納 谷 原 征 司	FS39	池 田 孝 彦	FS53
平 田 次 男	FS22	藤 原 清 武	FS39	中 野 稔 秀	FS53
齋 藤 純	FS23	奥 村 則 彦	FS41	野 本 中 原	FS54
高 橋 富 次郎	FS23	岸 部 重 恒	FS41	柳 阿 部 山	FS56
佐 藤 信 孝	FS24	倉 重 昌 義	FS41	阿 中 大 中	FS62
高 梨 辰 治	FS25	朝 日 嶋 茂 夫	FS42		成 規
永 井 直 昭	FS25	高 嶋 藤 明 男	FS43		宏 介
稻 住 穰	FS26	齊 成 田 野	FS45		祐 輔
菅 景三郎	FS30	成 金 野	FS45		
高 島 邦 弘	FS32	宮 野	FS47		
福 原 宏 明	FS36		FS50		
資源化学工学科					
花 岡 功	RS62	堀 田 好 紀	RH2		
資源・素材工学科 (Cコース)					
堀 部 孝 広	SH 8	高 村 仁 幸	SH10		
物質工学科 (応用化学コース)					
古 平 博 之	AH 6	夏 井 秀 明	AH10		
伊 藤 亮	AH10	木 村 武	AH13		
環境物質工学科					
三 上 さおり	UH18	黒 須 俊 行	UH19		
鉱山機械学科・鉱山電機学科・機械工学科					
後 藤 敏 夫	MS 9	上 條 治 宏	MS23	森 川 吉 二	MS39
今 泉 信 彦	MS12	田 村 謙 一	MS23	佐 藤 金 治	MS41
和 田 雅 敬	MS12	佐 藤 正 通	MS24	加 賀 勉	MS42
成 田 宏	MS17	星 野 慎 一	MS28	寺 岡 紘 朝	MS42
芋 田 匡	MS18	伊 藤 通 義	MS29	戸 田 春 剛	MS42
柴 山 治 男	MS18	高 橋 三 郎	MS30	布 川 剛 雄	MS43
高 谷 正 雄	MS18	村 木 信 弘	MS30	佐 藤 昭 賢	MS43
中 村 五 郎	MS18	佐 藤 玉 三	MS31	三 浦 悦 久	MS44
山 口 恒 夫	MS18	小 味 瀧 夫	MS34	岡 山 純 夫	MS44
鑑 屋 富 太郎	MS19	小 味 浩 三	MS35	芝 原 文 和	MS45
山 下 浩 一	MS19	高 島 橋 浩 道	MS35	猪 俣 日 藤	MS47
北 村 賢 一	MS20	島 柿 崎 協 一	MS37	朝 伊 泰 和	MS47
星 野 芳 男	MS20	熊 谷 泰 勝	MS38	伊 茂 木 正	MS48
大 日 向 六 郎	MS22	小 玉 藤 弘 志	MS38	荒 佐 一 公	MS49
長 崎 重 光	MS22	近 藤 辰 夫	MS38	佐 々 木 善 章	MS49
浜 本 正 男	MS22	斎 森 堅 一	MS38	高 橋 文 雄	MS50
松 本 潔	MS23				
扇 川 昭 夫	MS23				

亀大 小斎 水	山内 林藤 野	正栄 竜	敏幸 治行 浩	MS53 MS58 MS61 MS63 MH1	高柴 西高 金	木田 原山 藤	康修 重尚	治吾 信暢 修	MH3 MH5 MH7 MH14 MH15	徳畑 村柴	田内 上田	祐政 武尚	一弘 治徳	MH15 MH16 MH16 MH17
生産機械工学科														
武栢 野左	智植 近	和	範誠 武	PS57 PS57 PS57	緒三 木	方原 村	孝俊	敦之 仁	PS60 PS61 PS62	熊南 山	田本	光昌	雄樹 蕉	PH1 PH2 PH3
電気科・鉱山電機学科・鉱山電気学科・電気工学科・電気電子工学科														
小野 柿工 本五 十伊 今加 菅松 池堀 福吉 近佐 近平 石春 高伊 小	寺下 藤間 嵐藤 村倉 沼藤 田江 田岡 藤藤 沢川 日川 藤川	虔富 宏進 博夫 臣久 保実 弘勝 孝昇 成義 子滋 隆富 弘寛	一男 玄宏 進博 夫臣 久保 実勝 孝昇 成義 子滋 一雄 三昌 努	ES19 ES19 ES19 ES19 ES20 ES20 ES20 ES20 ES20 ES22 ES22 ES23 ES23 ES26 ES26 ES30 ES30 ES32 ES32 ES32 ES33 ES33	菊地 鈴木 沼田 小川 甲斐 川田 成出 高坂 和岡 佐藤 菅原 鈴木 田中 細谷 澤出 佐藤 橋本 佐々 仙水 門	地木 田川 斐川 田雲 坂田 寄藤 原木 中谷 出藤 本木 波澤 間	康淳 眞磋 修一 正三 邦富 憲茂 徹勝 健眞 日出 夫茂 均	豊弘 一清 實己 栄純 一三 昭夫 朗憲 也幸 三勉 見透 夫茂 均	ES33 ES33 ES35 ES36 ES37 ES37 ES37 ES38 ES39 ES39 ES40 ES40 ES40 ES40 ES40 ES41 ES42 ES43 ES43 ES44 ES44 ES44	石鈴 竹池 田高 須三 晶鍛 西小 笠神 梨子 永日 門猪 大荒 尾三	川本 本田 中坂 貝浦 山治 館原 谷田 津沼 間俣 田崎 井	庄松 重博 昭静 邦和 政昌 良久 博仁 直智 真	一雄 茂秀 道雄 郎至 俊実 彦磨 己男 樹幸 之吉 樹穂 登	ES45 ES46 ES47 ES48 ES48 ES50 ES50 ES51 ES54 ES55 ES58 ES61 ES63 ES63 EH7 EH11 EH11 EH12 EH15 EH18 EH19
電子工学科														
佐藤 岸	藤部 英	満人	DS55 DS56	澤田 水戸	郁雄 由美子	DS56 DS62	佐藤 池	寿登	DH1 DH5					
鉱山土木学科・土木工学科・土木環境工学科														
池井 大須 竹藤	田川 橋野 貝内 島	誠吾 誠夫 隆正 直樹 敏博 久	CS45 CS48 CS48 CS48 CS49 CS49 CS49	伊藤 神新 宇古 高日	藤宮 垣方 関橋 向	憲二 博勉 正範 樹昌 之	CS50 CS50 CS52 CS52 CS52 CS52 CS52	東川 渡矢 佐門	樹合 部野 藤田	幸哲 勝英 高	亮也 聡弘 彦明	CS54 CS58 CS60 CS61 CH2 CH8		
情報工学科														
石井 篠原	雅樹 史子	IH 9 CH7	野原 聡之 哲郎	IH19 XCH12										
博士前期課程のみ修了														
博士後期課程のみ修了														
特設科（養成部・通信教育）														
五十嵐 俊彦	LS35	大野 正夫	LH 2	鎌田 裕夫	LS42									

平成18年3月 秋田大学大学院工学資源学
研究科博士後期課程機能物質工学専攻 修了
博士(工学)取得

平成18年4月 秋田大学ベンチャー・ビジネ
ス・ラボラトリー中核的研究機関研究員

平成18年10月 秋田大学工学資源学部附属環
境資源学研究センター研究機関研究員

平成19年10月 秋田大学工学資源学部環境物
質工学科助教

専 門：無機材料化学

事務局から

寄 附 金 (受付順, 敬称略)

次の方よりご芳志を頂戴いたしました。厚く
お礼申し上げます。

故 小林 政信 (FS50)	ご遺族	3,000円
故 佐藤 全 (ES19)	〃	6,000円
故 高橋由紀夫 (HS51)	〃	6,000円
故 牧 養一 (ES26)	〃	10,000円
竹内 敏博 (CS49)		1,000円

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

色 部 誠 先生 ご逝去

色部誠先生(元土木工学科教授)は、平成19年6月ご逝去されました。

(北光138号発行後連絡を受けた方々)

連絡先については事務局にお問い合わせ下さい。

科・年	氏 名	死亡年月日		氏 名	死亡年月日
MS9	徳 重 俊 樹	福岡県 H19年7月9日	MS22	保 坂 茂 雄	新潟県
BS13	船 木 誠 一	埼玉県 H19年7月6日	BS23	滝 田 潔	栃木県 H19年8月3日
HS16K	廣 瀬 元 春	千葉県 H19年7月3日	BS23	松 岡 昭 夫	福岡県 H19年9月28日
KS16K	二 木 清 茂	東京都 H19年7月16日	FS23	小 林 昭	東京都 H18年7月10日
MS16K	中 嶋 達 雄	静岡県 H18年11月19日	KS23	明 石 淑 郎	神奈川県 H19年10月30日
MS17	富 樫 六 郎	千葉県 H18年12月19日	MS23	中 田 勉	東京都 H19年8月15日
BS17	金 田 泰 吉	栃木県 H16年6月24日	ES23	今 野 太恵士	秋田県 H19年8月1日
BS18	佐 藤 慶 夫	大阪府 H19年9月18日	ES24	伊 藤 俊 雄	神奈川県 H19年6月10日
BS19	河 口 敬	東京都 H19年7月6日	KS25	伊 藤 良 男	秋田県 H19年6月9日
HS19	荒 沢 久米男	埼玉県 H19年8月29日	ES26	牧 養 一	秋田県 H19年6月21日
KS19	谷 口 正	秋田県 H19年8月8日	FS31	太 田 卿 子	神奈川県 H19年6月25日
ES19	佐 藤 全	北海道 H19年5月18日	BS33M	佐 瀬 邦 夫	福島県 H17年7月17日
OS20	高 田 隆 吉	東京都 H19年7月22日	BS33M	竹 内 昭 夫	秋田県 H18年12月4日
KS20	高 桑 忠 美	新潟県 H19年10月29日	BS33M	西 田 和 人	愛知県 H18年5月28日
BS20	佐々木 友 喜	北海道 H19年8月1日	FS50	小 林 政 信	東京都 H19年3月
OS22	山 本 昭	東京都 H18年5月5日	HS51	高 橋 由紀夫	秋田県 H17年10月15日
KS22	加賀谷 竹 次	秋田県 H18年5月14日	MH3	新 堀 格	秋田県 H19年2月7日

一 編 集 後 記

今年は日本全国で猛暑と呼ばれたとても暑い夏でした。何年ぶりの日本最高気温(40.9℃)を更新したときは、私はお盆で実家に帰省している最中でした。秋田も例年に無く暑い夏であったと聞いています。しかし、最近は夏の暑さが嘘のように朝晩が寒い季節となりました。

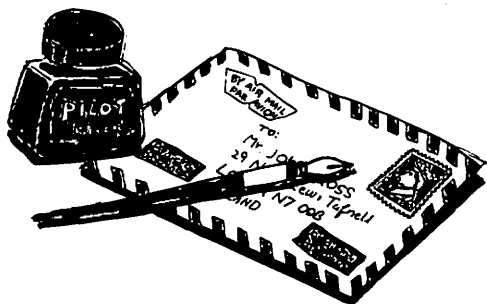
この秋には、秋田では約50年ぶり(以前は昭和36年)の秋田わか杉国体が開催され、秋田県選手団は総合成績1位を取り盛況の後幕を閉じました。大学からも学生を初め、職員も様々な競技に参加、または見学に行ったことと思います。国体開催中は天気も良く、絶好のスポーツ日和となっていました。そんな中、私は国体を見学することもできず、大学と家との往復だけで少しでも時間を作り、せっかくの国体を見学にいければ良かったな、運動不足を解消できる良いチャンスでもあったと後悔をしております。

さて、国体も終わり、大学は後期が始まり学生がキャンパスに戻ってきました。休み中の閑散とした雰囲気が無く、賑やかないつもの様子になっています。今週末(10月20, 21日)には大学祭も開催され、特に20日はオープンキャンパスとして、一般の人達に研究室を見学してもらうことになっております。今は各研究室がオープンキャンパスの準備をしております。大学の近所の人々に大学の様子を理解してもらう良い機会となっています。今回の記事の中に大学祭の様子が出ていますが、北光を通じて雰囲気が少しでも伝われば幸いです。

これから秋田は本格的な冬を迎えようとしています。去年は珍しく、温暖化の影響なのか解りませんが、雪がほとんど降らない、そして積もらない冬でした。一昨年の大雪と比べて、一年でこうも違うのかと感心したものです。雪が無いことがどれだけ楽なものかと実感しました。しかし、雪が多すぎるのも問題ですが、全く無いというものの風情が感じられず、何か物足

りない気持ちがあったのを憶えています。今年の冬はどうなるのか全く解りませんが、秋田らしい冬になれば良いと思っております。

(近藤良彦 FH5)



発行所 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
秋田大学工学資源学部 北光会
URL: <http://www.hokkokai.com>
E-mail: info@hokkokai.com
電話 018 (835) 9822
018 (889) 2317
FAX 018 (835) 9822
振替 02510-5-1231

発行人 菅井幹夫 (FS40)

編集委員

石山 大三 (GS56), 今井 忠男 (BS63)
杉山 渉 (MH2), 近藤 良彦 (FH5)
景山 陽一 (IH7), 福本 倫久 (AH10)
萱野 良樹 (EH13), 齋藤 憲寿 (CH18)

北光会事務局

事務局長 菅井幹夫 (FS40)
庶務担当理事 中田真一 (FS53)
会計担当理事 今野和彦 (DS54)
ホームページ担当理事
横山洋之 (DH1)
コンピュータ担当理事
玉本英夫

事務室 遠藤福子, 佐々木静子
印刷所 秋田活版印刷株式会社

あなたの技能・経験・人脈をあきたで活かしてみませんか

厚生労働省委託事業
秋田県中小企業団体中央会主催

東京で秋田県の 清酒 機械金属 製造業 製造業 に就職希望する方々の Aターン就職相談会

「機械金属製造業」「清酒製造業」の求人情報の提供とAターン登録の受付。

全職種のAターン就職をはじめとした定住に関する各種相談等も実施いたします。

※企業との面接会はありません。

相談会開催日

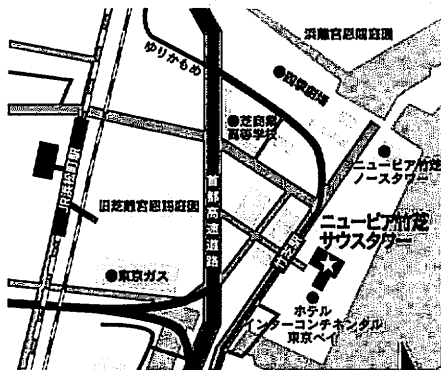
11/30 [金] 12/1 [土]

17:30~
21:00

★ナイト相談会
実施します!!

10:00~
15:00

会場
案内



ニューピア竹芝サウスタワー

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目16番1号 4階会議室
TEL.03-5402-3006 会議室備付

「高い技能」・「幅広い経験」・「多くの人脈」等を有する団塊世代の方（現在首都圏在住）を中心に、秋田の企業へ招致し、企業の活性化を図り、雇用を創出することを目的としています。

秋田県中小企業団体中央会
問い合わせ先 〒010-0923 秋田市旭北錦町1番47号 秋田県商工会館5階
TEL.018-863-8701 FAX.018-865-1009

協力：財団法人 秋田県ふるさと定住機構
E-mail: info@furusato-teiju.jp



※Aターンとは
秋田県へのUターン・Iターン・Jターンの総称で、秋田出身の方もそれ以外の方もみんな秋田にきて秋田に住んでくださいとの願いを込めたオールターン(ALL Turn)の"A"と秋田(AKITA)の"A"とをかけた言葉です。

URL <http://www.chuokai-akita.jp/>
U・Iターン事業URL <http://www.chuokai-akita.jp/dankai>

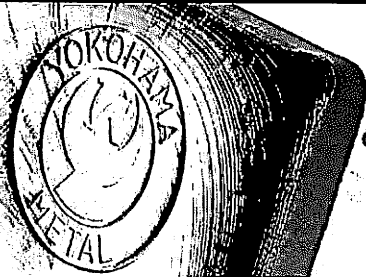
担当 機械金属製造業 保坂 E-mail: hosaka@chuokai-akita.jp
担当 清酒製造業 長谷川 E-mail: hasegawa@chuokai-akita.jp

TEL.018-826-1731 担当: 齋藤
URL <http://www.furusato-teiju.jp>

次回の相談会は

2008/2/1 [金]
2/2 [土]
の予定です

週末ですので、お知り合いの方がたも是非お誘いください。



横浜金属株式会社

終りのない鉱脈は、都市にある。

純銀
999.9

Gold Silver Platinum Palladium Rhodium Ruthenium

- 社団法人日本金地金流通協会正会員
- L.M.E.(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金指定鑑定業者
- 日本工業規格表示許可工場(銀地金)
- ISO9001認証登録(横浜金属株式会社)
- ISO14001認証登録(横浜金属商事株式会社)
- ISO9002認証登録(裕昌金属工業株式会社)
- 社団法人日本経済団体連合会会員(横浜金属株式会社)

貴金属 精製・精錬

貴金属 歯科材精製・材料販売

貴金属 工業材料

貴金属 宝飾品加工販売



YOKOHAMA METAL CO., LTD.

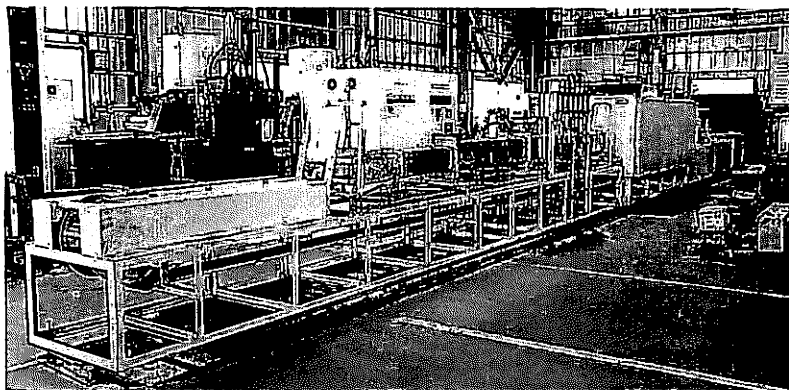
横浜金属グループ

横浜金属商事・JCY・裕昌金属工業(韓国)

本社/〒229-1132 神奈川県相模原市橋本台3-5-2 Tel 042(773)4411 Fax 042(773)4775
<http://www.yk-metal.com>

ステンレスの光輝焼鈍・硬化処理

精密鍛造の光輝球状化焼鈍



株式会社 **サーマル**

〒173-0014 東京都板橋区大山東町38-8

Tel.03-3962-4011 Fax.03-3963-0694

URL <http://www.e-thermal.co.jp> E-mail thermal1@sepia.ocn.ne.jp